

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益社団法人 教育演劇研究協会
公演団体名	劇団たんぽぽ

内容
<p>本公演実施の1ヶ月ほど前に、指導者、補助者併せて3名でワークショップに伺います。ワークショップは、<b>コロナ対策のために、学校側と話し合い、人数制限や時間の短縮に対応いたします。絵を描くワークショップでは、感染対策に注意しながら、人数制限や距離を保って実施</b>します。 ※その他、学校の状況に合わせて、対応します。</p> <p><b>【事前準備】</b> ワークショップまでに、台本や歌詞、音楽CDを各学校に配布します。台本は、先生方に、内容をイメージしてもらうためのものです。休み時間等を利用し、歌を周知していただきます。（耳になじませる程度）</p> <p><b>【ワークショップ当日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動内容、上演作品について説明。</li><li>・ 発声や体を使った表現を楽しむ。</li><li>・ エンディングソング「いのちのまつり」を全員で練習。</li><li>・ エンディング場面（カチャーシー）の練習。音楽に合わせ、太鼓やカスタネット等の学校にある楽器や自分で考えた音の出るものを使って音を出したり、指笛をふいたり、自分たちが今ここに元気で生きているよ、ということ伝えるような表現を体験する。</li><li>・ 「いのちのまつり」の歌を歌いながら、手踊りを交え、自由に体を動かす。子どもたち同士で「一緒に楽しもうよ」というコミュニケーションが図れるようにする。</li></ul> <p><b>→コロナ対策で、発声や歌を歌うことが困難な場合は、教材送付のみとし、心の中で歌を歌って欲しいと呼びかける。</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 3,4年生を中心に、自分たちの周りには、たくさんのつながってきた命に囲まれ、ひとりじゃない！という意図を説明しながら、自分の好きな大切に思っている人たち（家族、ご先祖様、友だち等）の顔を紙に書いてもらう。</li></ul>

タイムスケジュール（標準）
学校授業時間の3.4時限目、または、5.6時限目でワークショップを行います。 （学校様のご要望によって、相談に応じます）

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

主指導者 1 名

補助者 2 名

学校における事前指導

事前に音楽 CD、歌詞を各学校に配布します。休み時間や給食の時間等を利用して、CD を流し、生徒たちに音楽を周知していただきます。歌の練習は、ワークショップで行うため、それまでに生徒たちの耳になじませる程度の周知をお願いします。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益社団法人 教育演劇研究協会
公演団体名	劇団たんぽぽ

演目

『いのちのまつり』

原作/草場一壽 「いのちのまつり」(サンマーク出版)  
脚本/久野由美・松下哲子 監修/ふじたあさや  
演出/大谷賢治郎 人形演出/つげくわえ  
音楽/遠山裕 美術/池田ともゆき 衣装/坂本真彩  
振付/酒井麻也子 照明/坂本義美 音響/山北史郎  
制作/上保節子

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

出演者 7名  
スタッフ 3名  
(合計10名)

タイムスケジュール(標準)

コロナ対策で、歌での参加、共演が無くなった場合は、当日のリハーサル時間がなくなるので、以下のようなスケジュールになります。

【開演時間13:30の場合】

9:00~12:00 搬入・仕込み(3時間)  
12:00~13:15 昼食・開演準備  
13:15~13:30 児童生徒入場  
13:30~14:40 公演(バックステージ有の場合は+30分)  
~16:30 撤収

※上記は、基本です。開演時間と合わせて、学校側と相談しながら進めていきます。

#### 実施校への協力依頼人員

特に必要ございません。

#### 演目解説

原作は、累計 35 万部突破の絵本「いのちのまつり」（サンマーク出版）シリーズを舞台化。

##### 【あらすじ】

カー坊は、もうすぐ11歳。なぜかいつも思い通りにいかないことばかり。どうしてだれも、僕の気持ちをわかってくれないの？ 楽しみにしていた誕生日に欲しかったものがもらえなくて、カー坊は家を飛び出した。「あー、ムカツク！お父さんもお母さんも、クラスの奴らも、みんなが俺をイライラさせる。みんな、大っ嫌いだー！」そんなカー坊の前に、突然現れたのは、沖縄にいるはずの会ったことのないおじいちゃんだった。親から子へ、そして孫へ、つながっていく“いのち”の物語。

##### 【見どころ】

言葉に頼らないオープニングは、何が始まるんだろうという興味から、子どもたちを舞台へ引き付けます。そこから物語が始まり、子どもの友達との関係性や親とのやりとりが、あるあると思わせる展開になっているため、自然と演劇の世界へ入っていける作りになっています。随所に歌や踊りが、入っており、特にエンディングのエイサーから続くカチャーシーの場面は、今ここに生きている命と、これまでつながってきた命に対する祝祭の場面として一番の見どころです。過去から未来へ続く“いのち”をテーマに描いているこの作品で、「自分は、ひとりじゃない。」ということを感じて欲しいと思います。また、この作品は「厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財」の推薦作品です。

#### 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

コロナ対策で、エンディングの歌と一緒に歌うことができない場合は、手拍子などで参加できるように促します。

ワークショップの際、自分たちが描いた絵を体育館に掲示した中で、鑑賞してもらいます。巡回で公演してきた各学校で描いてもらった絵も預かりながら、すべての絵を掲示します。自分たちは、一人じゃない。たくさんの大切な人たちに囲まれているんだということを感じてもらえるようにします。

#### 児童生徒とのふれあい

学校側の時間が許す限り、「バックステージツアー（舞台裏見学）」を開催したいと思います。そこでは、劇団員が、舞台の上で案内役、説明役となります。小道具や楽器に触れる機会を設けたり、質問に答えたりする形で、役者たちと交流を図りながら、児童生徒とふれあいます。